

男女共同基本計画の素案に 「旧姓使用法制化」

パブコメの9割を
占めた「別姓反対」

政府は12月中旬、今後5年間の方向性を定める「第6次男女共同参画基本計画」について、男女共同参画会議を開き、「旧姓の通称使用の法制化を検討する」と記載した「基本的な考え方」の素案を示しました。

自民と維新が10月に「旧姓の通称使用の法制化法案を令和8年通常国会に提出し成立を目指す」と明記した政策合意を受けた動きです。ただ、この日は「原案」として取りまとめることができず、高市首相への「答申」は持ち越されました。参画会議の連合側委員の「抵抗」によるもの

【参考】第6次男女共同参画基本計画のパブコメに集まった全意見(10分野)



ので、法制化の見通しは予断を許しません。

親子別姓が寸断する 子供の「アイデンティ

昨年来の議論をみていると、劣勢の別姓派が最後にすがりつくのが「アイデンティティの喪失」です。彼らは、父母にもつた姓を使い続けることで、自分の「アイデンティティ」を保つのだと言います。しかし、生まれてくる子どもは、自分の意思とは無関係に、どちらかの姓を押しつけられま

す。「子のアイデンティティ」は、その瞬間に寸断されてしまうのです。内閣府が「基本的な考え方(素案)」に関して募集した意見(パブリックコメント)には約1万8900件が寄せられ、10月中旬にその結果がまとまりました。このうち、夫婦(家族)の姓のあ

り方については約1万4000件が占め、実に9割を超える約1万3000件は選択的夫婦別姓に「反対・慎重」でした。「親子別姓」の問題点を指摘する声が多く、30代の女性は、こんな意見(抜萃)を寄せています。

「愛着理論」が説く 親子の姓一致の重要性

「私は事実婚の家庭で育ち、『同じ姓でいたかった』という子ども時代の実感には、愛着と安定への渴望に根差していました。発達心理学のボウルビイの愛着理論が示すように、『家族が一つである』という感覚は安心感に直結します。姓の一致は子どもにとって心理的安定と帰属感を支える重要な要素であり、制度として選択的夫婦別姓を導入することは、その安定を揺るがすリスクを伴うと考えます」。

ボウルビイはイギリスの発達心理学の精神科で、「乳幼児が特定の養育者(主に母親)との間に形成する情緒的な絆(愛着)が、その後の人間関係や心の安定の基盤となる」と述べています。

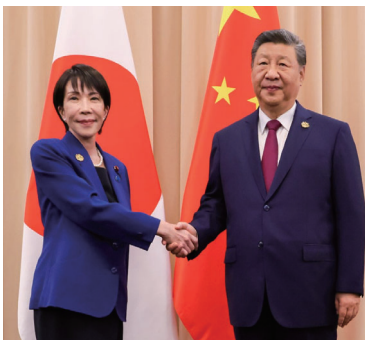
背景に「経済失敗」の焦りも

習近平の「悪態」は逆効果

台湾侵攻の危機を世界に
知らしめた高市発言

習近平率いる独裁政権による高市早苗首相への「悪態」はとどまるところを知りません。しかし、多くの国民が「冷静かつ毅然」とした首相の対応を心強く見守っています。高い支持率がそれを物語っています。

中国の異常なまでの威嚇の背景には2つの問題が潜んでいるように思えます。まずは経済政策の失敗です。とりわけ不動産バブルの崩壊は深刻で、恒大集団や碧桂园などの巨大企業の経営破綻に加え、最大で5割と売の下落、地方政府の7割が土地収入のを失って財政破綻に追い込まれている現実があります。若年層の失業率が20〜30%という数字も見逃せません。



就任後初めて習近平国家主席と会談した高市首相(写真・内閣府)

さらに大事な視点があります。2017年で3期目を終える習近平は次の5年間を見据えており、権力闘争に勝利するには、台湾併合という「実績」や「名分」が要ります。それを阻む要因の一切を排除しておきたい彼は、高市首相の存在は邪魔で仕方がないということでしょう。日本への威嚇は、結果的に台湾侵略が迫っていることを世界に知らしめ、国際的孤立を招く結果にもなっています。

人々の怒りや不満を、国外への「憎悪」によって吐き出させるのが、世の東西を問わず、独裁者が最後に使う手段です。その格好の標的とされたのが高市政権なのです。その高市首相に発言撤回を迫るのが立憲民主党です。それが、国益を考えない卑屈な媚中派の思惑によるものだと思えば、この党は次の選挙を経て、「退場」してほしくないです。

戦後80年の節目に誕生した「高市政権」が担う日本再生

回顧と展望 令和7年

令和七年は、日本の歴史の大きな転換点となりました。戦後80年の今年、天皇皇后両陛下は戦禍に倒れた人々を各地で追悼され、私たちも先人の戦前戦後の苦難を偲びました。そして、亡き安倍晋三元首相の遺志を継ぐ高市早苗首相の誕生です。首相の『日本を強く豊かに』は、戦後の

令和七年は、日本の歴史の大きな転換点となりました。戦後80年の今年、天皇皇后両陛下は戦禍に倒れた人々を各地で追悼され、私たちも先人の戦前戦後の苦難を偲びました。そして、亡き安倍晋三元首相の遺志を継ぐ高市早苗首相の誕生です。首相の『日本を強く豊かに』は、戦後の

天皇皇后両陛下のご慰霊の行幸啓

天皇皇后両陛下は4月、上皇皇后両陛下が平成6年に初めて慰霊さ

れた硫黄島を訪問されました。2万人の兵士が戦死したこの地で、両陛下は静かに鎮魂の祈りを捧げられました。沖縄、広島（写真）、長崎に足を運ばれました。



た。そして日本兵が極寒の収容所で亡くなったモンゴルも訪問されました。一方、安倍首相の「70年談話」が全てであるとの世論によって、石破茂首相が目論んだ終戦記念日前後の「80年談話」は幻に終わりました。

皇位継承「皇族養子案」と旧姓使用法制化

立憲や共産を除く野党は「皇室にとどまる女性皇族の配偶者と子皇籍を離れた宮家の男系の子孫を皇族の養子とする」ことについては一致しており、これは何度確認されました。

ただ、立憲は「両論併記」で結論が出ていないのに、女系を否定しない野田代表らが自らの考え

石破政権の終焉と高市内閣の幕開け

昨年の秋、自民党総裁選の決選投票で高市が石破候補に逆転され、私たちは実に悔しい思いをしました。

無謀な解散総選挙で与党は過半数を失い、今年7月の参院選でも敗れて衆参ともに少数野党に転落しました。その間、志を共にする多くの国会議員を失い、多くの保守層が離れていきま



を「党の見解」であるが、専行」が問題とされており、来年の通常国会では大多数の与野党の考えをまとめた「法案」が具体化することが期待されます。

旧姓の通称使用については、第6次男女共同基本計画の「基本的な考え方」の素案に「通称使用法制化」の文言が初めて入りしました。連合などの抵抗を打ち破る基本計画の閣議決定が待たれます。

高市首相の外交デビューは鮮烈でした。10月28日、来日した米トランプ大統領と会談。大統領専用ヘリに乗り込んで米軍横須賀基地に向かい、原子力空母「ジョージ・ワシントン」の艦上で一緒に海兵隊員らの前に立ち、世界に向け「日米の結束」をアピールしました。

中国の軍事的脅威と国防の強化

高市総裁の誕生でした。足枷となってきた公明が自ら政権を離れ、「天祐」ともいうべき状況に変わりました。支持率は驚異的な70%前後の数字を維持しており、これを若者が力強く支えています。

高市首相が、韓国のAPEC首脳会議で習近平と会談したのは3日後。少数民族問題に触れるなど、臆することのない首相に、習近平が笑顔を見せることはありませんでした。その後、高市答弁を利用して中国側が威嚇を始めたのは、「必定」とも言える結果でした。



平河町通信で
振り返る令和7年

今年1年間に配信した全24回の
メールマガジンを掲載